

浦安市の財政に関する報告書 2008 概要版



平成22年2月

浦安市

浦安市の財政に関する報告書概要版は、市民のみなさんによりわかりやすい財政情報を公表しています。

一緒に、浦安市がどれ位の資産（財産等）があり、どれ位の負債（借金等）をかかえているのか財務書類を基に学びましょう！

1. はじめに

【財務書類の概要】

地方自治体の公会計制度は、その年度にどのような収入があり、それをどのように使ったかといった現金の動きがわかりやすい反面、市が整備してきた資産や借入金などの負債といったストック情報や、行政サービス提供のために発生したコスト情報の不足がありました。

そこで、企業会計的な手法を取り入れ、それらの弱点を補うのが、国が推奨する「新地方公会計制度」の財務書類です。

【基準モデルの特徴】

新地方公会計制度は、民間の企業会計の考え方と会計事務を基に、資産、税収や移転収支など地方自治体の特殊性を加味した財務書類で、開始貸借対照表を固定資産台帳に基づき作成し、現金取引情報に止まらず、ストック・フロー情報を網羅的に公正価値で把握した上で、個々の取引情報を発生主義により複式記帳して作成することを前提としたものです。

会計データを示すことで将来世代の負担も見る事が可能であり、最初に負荷があるものの、一度整備すると継続しやすい財務書類です。予算編成のシミュレーションも可能となります。

(1) 貸借対照表（バランスシート）

貸借対照表は会計年度末（3月31日）時点（ただし出納整理期間中の増減を含む）における資産や債務に関する情報を一目で分かるようにしたものです。

左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を計上しています。

○資産

資産とは、利益を生み出すために必要な資金等です。浦安市が所有しているお金・土地・建物などの財産といろいろな権利（著作権等）やソフトウェアなどをいいます。資産の部は原則として、現金化しやすい順に並んでいます。

○負債

負債とは、第三者に対して金銭や物を借りて返済の義務を負うこと。また、その借りた物をいいます。負債の部は原則として、返済を急ぐ必要がある順に上から並んでいます。

○純資産

純資産とは、総資産から総負債を差し引いたものです。

資産	金融資産 非金融資産 (市が所有している財産の内容と金額)	負債	将来世代の負担 (地方債・職員の退職手当引当金等)
		純資産	過去・現世代の負担 (国県支出金等)

(2) 行政コスト計算書(損益計算書)

行政コスト計算書を見ることによって浦安市の経営成績が把握できます。この表は、企業の利益にあたるものです。浦安市は利益を追求しないため、これにかわる人的サービスや給付サービスなどの行政サービスによる収入とその費用が分かります。

区 分
経常費用
1. 人にかかるコスト 2. 物にかかるコスト 3. その他のコスト
経常収益
使用料・手数料 等
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)



(3) 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部を計算するものです。市の純資産(資産から負債を引いた残り)が平成20年度中にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示します。

区 分	
<前期末残高>	←期首の純資産
当期変動額 (内訳)	←市民からの税収で負担するコスト及び借入金以外の資金財源等
1. 財源変動の部	
2. 資産形成充当財源変動の部	
3. その他純資産変動の部	
当期末残高 (前期末残高＋当期変動額合計)	←期末の純資産 (過去・現世代の負担)

(4) 資金収支計算書（キャッシュフロー計算書）

1年間の資金の動きを明らかにする計算書です。現金主義による公会計計算に近い計算書類です。経常的収支、資本的収支、財務的収支区分に分けて表示します。

1. 経常的収支区分
<支出> 経常業務費等
<収入> 税収入等
2. 資本的収支区分
<支出> 固定資産形成等
<収入> 固定資産売却収入等
3. 財務的収支区分
<支出> 支払利息等
<収入> 公債発行収入等
当期資金収支
期首資金残高
期末資金残高



2. 財務書類（要約版）について

(1) 連結貸借対照表（BS）

(平成21年3月31日)

(単位:千円)

区 分	平成20年度	区 分	平成20年度
【資産の部】		【負債の部】	
1. 金融資産	49,545,486	1. 流動負債	8,198,312
資金	9,036,610	2. 非流動負債	53,046,317
金融資産(資金を除く)	40,508,876	負債合計	61,244,629
債権	5,080,393	【純資産の部】	
有価証券	203,450	財源	17,819,450
投資等	35,225,033	資産形成充当財源(調達源泉別)	71,896,466
2. 非金融資産	765,513,633	その他の純資産	664,098,574
事業用資産	216,086,969	純資産合計	753,814,490
有形固定資産	215,161,263		
無形固定資産	905,092		
棚卸資産	20,614		
インフラ資産	549,426,664		
資産合計	815,059,119	負債・純資産合計	815,059,119

①資産

本市の連結ベースの総資産は、8,150億5912万円です。総資産の内93.9%を占めているのが非金融資産であり、その内訳は土地・建物等の有形固定資産やソフトウェア等の無形固定資産である事業用資産や公共用財産用地及び施設のインフラ資産を表しています。

②負債

本市の連結ベースの総負債は、612億4,463万円です。市の地方債や債務負担行為、市職員の退職給付引当金等で構成されています。

③純資産

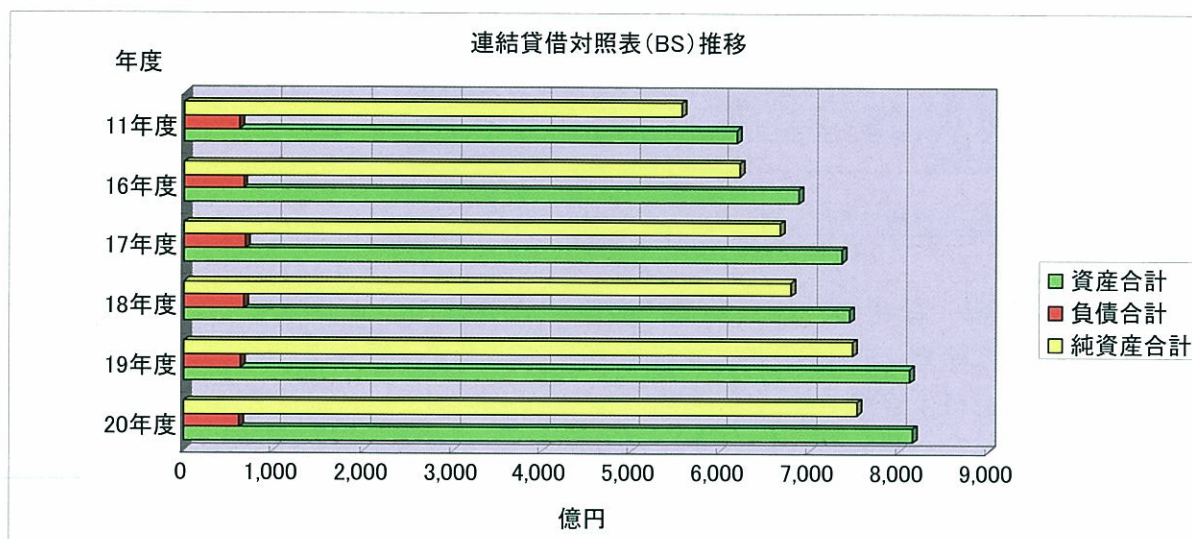
本市の連結ベースの純資産は、7,538億1,449万円です。税収及び公債等の充当財源で構成されています。

④年度別推移

連結貸借対照表推移(BS)

(千円)

	11年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
資産合計	618,579,928	688,460,986	736,334,146	745,489,195	811,696,311	815,059,119
負債合計	61,439,264	66,208,427	69,601,734	66,707,210	64,078,231	61,244,629
純資産合計	557,140,664	622,252,558	666,732,412	678,781,985	747,618,080	753,814,490



本市の資産合計と純資産合計は、平成11年度からゆるやかに増加しています。

しかし、将来世代の負担である負債合計については、平成11年度の614億3,926万円から平成17年度の696億173万円をピークに減少している傾向がみられます。

平成17年度は、小学校2校、中学校1校及び千鳥給食センター等の建設に伴う負債の増加によるものです。

この推移からも負債合計よりも純資産合計が多いことから、本市の財政状況は安定しています。



小学校や中学校や公民館等の施設も浦安市の財産なんだね！

借金が少ないということは、ぼく達が将来負担する金額も少ないんだね。今まで住んでいた人やお父さん、お母さんやおじいさん、おばあさん達のおかげなんだね！

(2) 行政コスト計算書 (P L)

(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:千円)

区 分	平成20年度
【経常費用】	
1. 経常業務費用	42,205,093
①人件費	16,952,824
②物件費	10,628,040
③経費	12,672,744
④業務関連費用	1,951,486
2. 移転支出	21,841,842
①他会計への移転支出	
②補助金等移転支出	5,598,829
③社会保障関係費等移転支出	14,921,174
④その他の移転支出	1,321,839
経常費用合計(総行政コスト)	64,046,934
【経常収益】	
経常業務収益	8,980,363
①業務収益	6,730,005
②業務関連収益	2,250,358
経常収益合計	8,980,363
純経常費用(純行政コスト)	55,066,572

①経常費用

人件費や物品購入などの物件費や業務委託などの経常業務費用と生活保護などの特別会計への繰出金などの移転支出で構成されています。経常費用合計(総行政コスト)は、640億4,693万円です。

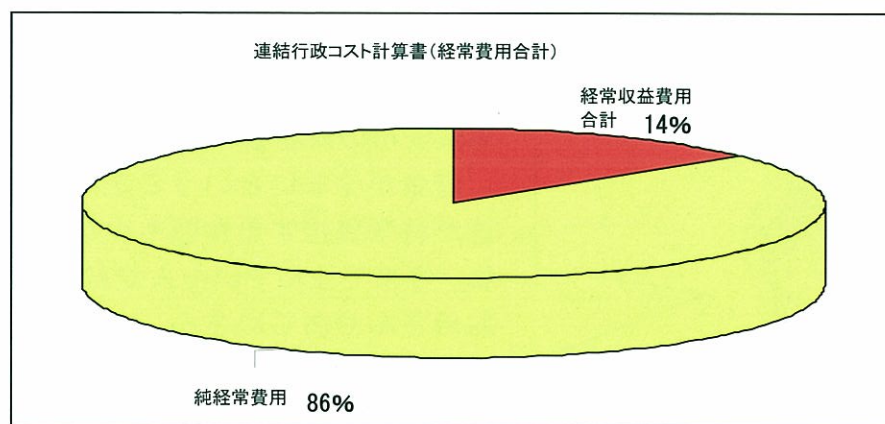
②経常収益

使用料、手数料などの業務収益や受取利息、資産売却益などの業務関連収益で構成されています。経常収益合計は、89億8,036万円です。ただし、経常収益合計の中には、税収は含まれておりません。

③純経常費用(純行政コスト)

経常費用合計から経常収益合計を差し引いたもの550億6,657万円が純経常費用となります。この純経常費用(純行政コスト)は、純資産変動計算書の項目のうち、財源の用途として表示しており、税収などの財源の調達により賄われていることが示されています。

④経常費用合計の割合



(3) 純資産変動計算書 (NWM)

(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:千円)

科 目	平成20年度
【財源変動の部】	
前期末残高	747,618,080
当期変動額	
I 財源変動の部	8,508,130
1. 財源の用途	-68,735,025
2. 財源の調達	77,243,156
II 資産形成充当財源変動の部	10,359,932
1. 固定資産の変動	14,401,441
2. 長期金融資産の変動	-4,040,866
3. 評価・換算差額等の変動	-643
III 少数株主持分変動の部	
IV その他の純資産変動の部	-12,671,652
1. 開始時未分析残高	
2. その他純資産の変動	-12,671,652
当期変動額合計	6,196,410
当期末残高	753,814,490

①前期末残高

平成19年度末の純資産合計7,476億1,808万円を転記しています。

②当期変動額

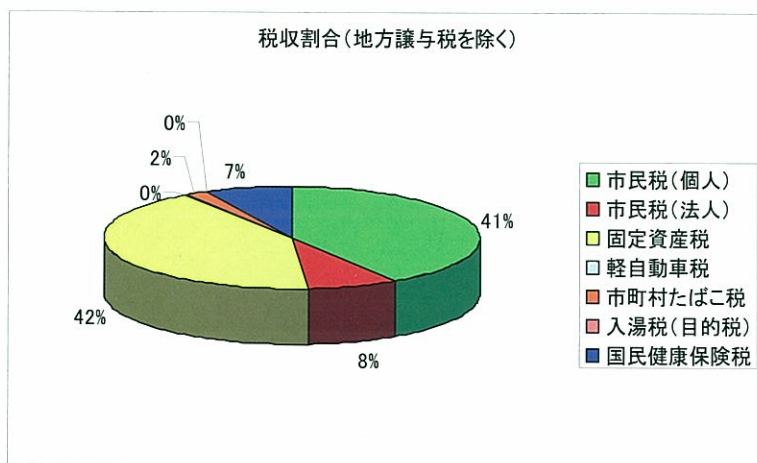
市民からの税収で負担するコスト及び借入金以外の資金財源等の変動金額を財源変動の部、資産形成充当財源変動の部、その他の純資産変動の部に分け表しています。当期変動額合計は61億9,641万円です。

③当期末残高

前期末残高と当期変動合計を合わせた7,538億1,449万円が当期末残高です。この金額は、貸借対照表の純資産合計額とイコールとなります。

④税収の割合

平成20年度に納められた地方譲与税を除く税収の割合を表しています。



お父さん達の市民税
や家や土地にかかる固
定資産税の収入が多い
んだね!



(4) 資金収支計算書 (CF)

(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:千円)

区 分	平成20年度
【経常的収支区分】	
Ⅰ. 経常的収支	
1. 経常的支出	56,481,078
2. 経常的収入	69,875,107
経常的収支	13,394,029
【資本的収支区分】	
Ⅱ. 資本的収支	
1. 資本的支出	9,319,420
2. 資本的収入	5,918,951
資本的収支	-3,400,469
基礎的財政収支	9,993,560
【財務的収支区分】	
Ⅲ. 財務的収支	
1. 財務的支出	23,100,209
2. 財務的収入	17,748,819
財務的収支	-5,351,390
当期資金収支額	4,642,170
期首資金残高	4,394,440
期末資金残高	9,036,610

①経常的収支区分

日常の行政活動による資金収支の状況を表し、支出額には人件費、物件費や社会保障給付などによる支出、収入額には市税や使用料などによる収入が計上されています。

②資本的収支区分

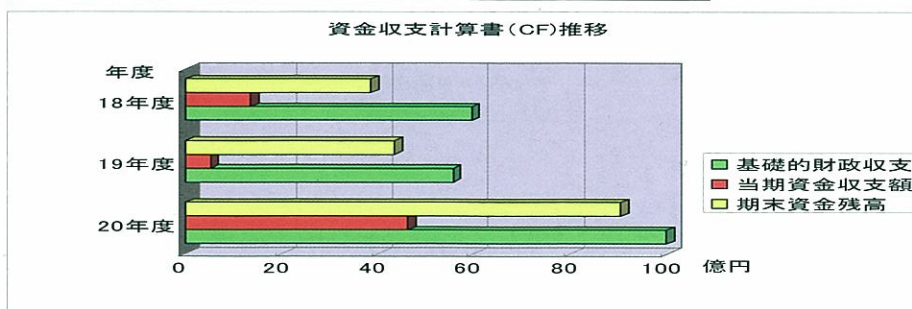
公共事業に伴う資金の使途や状況を表し、支出額には公共資産の整備による支出など、収入額には公共資産の売却などによる収入が計上されています。

③財務的収支区分

主に地方債の整備の元金償還の資金の出入りを表しています。

④年度別推移

	18年度	19年度	20年度
基礎的財政収支	5,955,444	5,563,670	9,993,560
当期資金収支額	1,344,509	518,777	4,642,170
期末資金残高	3,861,256	4,347,028	9,036,610



3. 市民一人当たりの財務書類について

(1) 人口年度推移

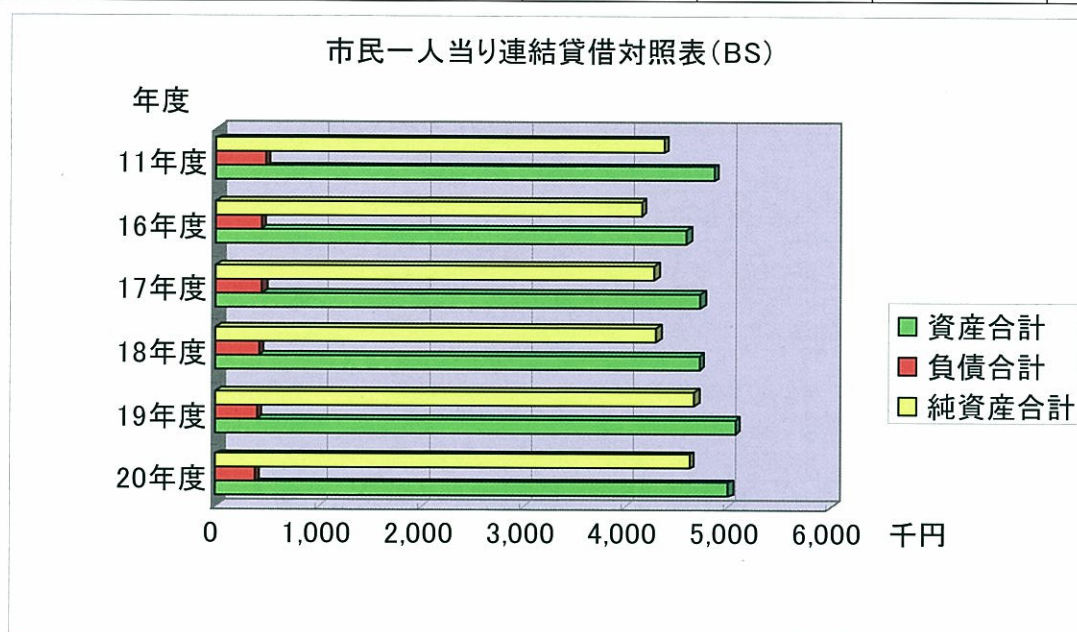
(単位：人)

	11年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
人口	127,474	149,863	155,714	157,896	160,031	162,944

(2) 連結貸借対照表 (BS)

(単位：円)

	11年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
資産合計	4,852,597	4,593,936	4,728,759	4,721,394	5,072,119	5,002,081
負債合計	481,975	441,793	446,984	422,476	400,411	375,863
純資産合計	4,370,622	4,152,143	4,281,775	4,298,918	4,671,708	4,626,218



○貸借対照表を作成した平成11年度と平成20年度を比較すると、資産合計及び純資産合計については増加しています。それに比べ人口の増加現象もありますが、将来世代の負担でもある負債合計については、減少している状況です。このことから、本市の財政状況は安定おり、将来世代の負担をあまり残さない運営をしています。



平成11年度の一人当たりの借金は、481,975円です。平成20年度は約10万円減少し、一人当たりの借金は375,863円で、堅実に借金を返済しているということですね。私たちのお父さん達のおかげで借金が少ないんですね。

4. 貸借対照表を家計簿に例えたら・・・

標準家庭に置き換えるのは、多少の無理はありますが、市民の皆さんに理解していただけるよう、極力近づけて作成しましたのでご覧ください。

(注意) 下の連結貸借対照表は、標準家庭4人(父、母、子供2名)として数値を表しています。(積算式: 市民一人当たり金額×4人)

連結貸借対照表

(平成21年3月31日)

(単位: 円)

区 分	平成20年度	区 分	平成20年度
【資産の部】		【負債の部】	
1. 金融資産	1,216,260	1. 流動負債	201,256
預貯金	221,832	公共料金等の未納分	30,904
金融資産(資金を除く)	994,428	将来のための私的年金	16,220
給料の未払金	124,716	支払のためのお金	21,808
有価証券	4,996	車のローン	111,740
投資等	864,712	消費ローン	20,580
出資金	1,744	2. 非流動負債	1,302,196
運用資金(財形等除く)	846,500	住宅ローン	877,256
財形年金等	16,468	教育ローン	138,804
		老後の資金	285,548
2. 非金融資産	18,792,068	敷金・保証金	592
事業用資産	5,304,572	負債合計	1,503,452
不動産等	5,281,844	【純資産の部】	
電話加入権等	22,220	給与等	437,436
販売を目的とした品物	508	身内からの援助	1,764,936
ライフライン	13,487,496	遺産(財産)	16,302,500
		純資産合計	18,504,872
資産合計	20,008,324	負債・純資産合計	20,008,324

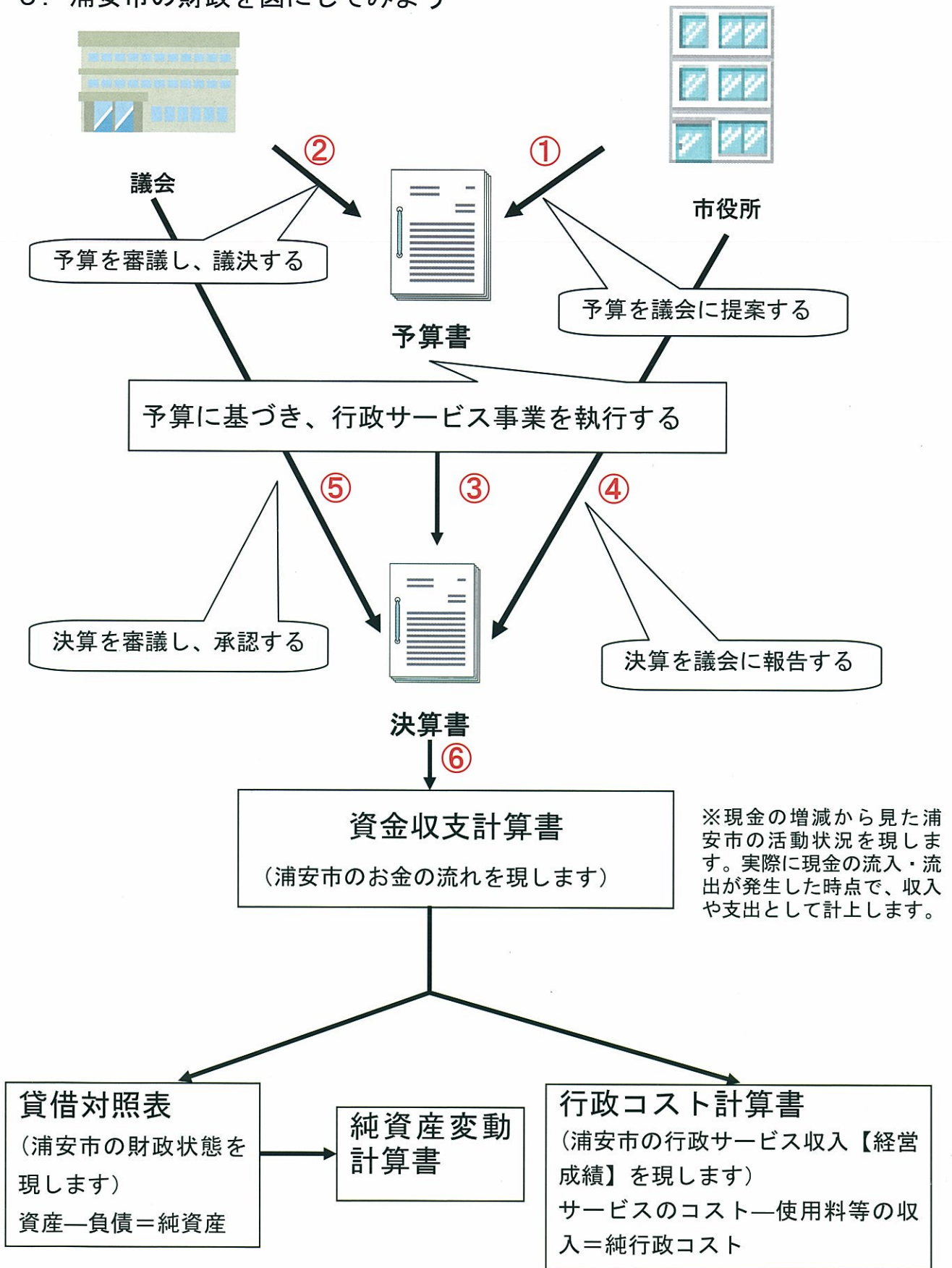
※上記の名称については、家庭に相当するものをあてはめましたので、実際とは異なります。



浦安市の財産を私たちの家計に例えてみると、借金が資産合計の8%であることから返済計画を立てやすいですね。

私たちも子どもたちへの将来負担を軽くしてあげるためには、日々の家計簿も必要だが、貸借対照表を作成することにより私たち家族の総資産がわかるんですね。

5. 浦安市の財政を図にしてみよう



浦安市の財政の流れは、1年間分の市民からの税金等の収入（歳入）と、市が行うとしている事業などを基に使われる支出（歳出）を見込んで予算書を作成します。この予算書を取りまとめ、議会へ提案し審議されます。議会では、提案された予算書を基に本当に必要なものかを審査して承認します。

この承認を受けて、1年間計画的に使用されます。

その後、この1年間の収入されたものと支出したものを集計し、収支報告書（決算書）を作成し議会へ報告します。

議会では、この収支報告書に基づき、適正に支出されたものかの審査を行い承認して、市民の皆さんにホームページや広報うらやすなどに報告書を公表しています。



家庭に例えると、お父さんの給料などの収入を年間で見込んで、食費や光熱水費を年間使用する金額を積算し、私たちにかかる経費等の支出を見込んで、家族会議にかけて、決定しているんだね。議会は、私たちの代表として予算や決算を審議しているんだね。

6. おわりに

市民のみなさん、浦安市の財政についてわかりましたか？みなさんが安心安全に住んでいただくよう街づくりをしています。

みなさんもこれを機会に、小遣帳や家計簿と併せ、貸借対照表を作ってみてはいかがでしょうか？

より、みなさんが住んでいる浦安市の財政が気になるのではないのでしょうか？

この内容をもっと知りたい方は、「浦安市財政に関する報告書」をご覧ください。

また、財務書類については、ホームページに掲載しています。

浦安市財務部財政課
〒279-8501
浦安市猫実一丁目1番1号
電話 047-351-1111（代表）
FAX 047-355-2602